

進学 合格体験記

1. 群馬大学 理工学部 物質・環境類
2. 福島大学 農学部 食農学類
3. 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科
4. 宮崎大学 農学部 畜産草地科学科
5. 群馬県立県民健康科学大学 看護学部 看護学科
6. 秋田県立大学 生物資源科学部 アグリビジネス学科
7. 駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科
8. 群馬県立農林大学校 農業経営学科 野菜コース
9. 群馬県立農林大学校 農と食のビジネスコース



1. 群馬大学 理工学部 物質・環境類

私が進路について考え始めたのは周りのみんなよりも遅かった気がします。もともと面倒臭がりな性格だったこともあり、1・2年生のときは自分から進路について考えることはせず、真剣に考え始めたのは3年生になってからでした。そのため学校主催のオープンキャンパスへの参加などはあまりできませんでした。そのため、オープンキャンパス以外の情報源から調べ、自分に合った学校を見つけられるよう努めました。そうして数校に絞れたとき、群馬大学に決めたその決め手は研究内容でした。私はもともと生物・化学に興味があったため、その関係の教授の研究内容を紹介したページをいくつかあさりました。その中で私の心が動いたのは群馬大学の教授のマイクロ人体モデルについての研究でした。そのため群馬大学を志望しました。

試験勉強については夏休みから本格的に取り組みました。試験は化学と数学、英語の口頭試問と面接ということだったので、その教科の先生にお願いして補習をしてもらいました。授業で学んでいない範囲から出題されるということを知っていたので、一から先生に教えてもらいました。総合型選抜1ヶ月間前くらいから口頭試問や面接の実践的な練習をはじめました。最初は全くと言っていいほどできず、そんな自分が嫌いになってしまいそうになりました。それでも、練習を続けていくとできることが少しずつ増え、それとともに自信が持てるようになりました。

いざ本番となるとどんなに練習していても緊張するかと思いましたが、不思議と緊張

せず自信を持って堂々と面接に臨むことができました。これは、先生方がしっかりとした指導を何度も何度も繰り返し行ってくれたことと、一緒に勉強した仲間の存在があったからだと思います。

ここまで努力を続けることができ、無事合格できたのは周りの人の支えがあったからだと思います。先生方や友達、家族に感謝しています。本当にありがとうございます。

2. 福島大学 農学群 食農学類

私は3年生の春まで、どこの大学にしようか悩んでいました。そこで、進路の先生に相談し、今まで高校で学んできた農作物の栽培や森林の活用方法などを活かしたいと言うことを伝えました。さらに、先生との話し合いの中で、野生動物などの自然環境についてより深く学びたいという自分の気持ちに気づくことができました。その後は、教えていただいた複数の大学について深く調べ、最も学習内容に興味を持った福島大学に学校見学に行きました。福島大学は1年次では農学リテラシーについて幅広く学び、2年次後期からは4つのコースの中から1つのコースを選択し、自分の学びたいと考えている野生動物の生態などについて専門的、実践的な学習をすることが可能です。学校見学では勢多農林高校の卒業生から実際の大学生活について聞くことができ、パンフレットなどではわからない大学全体の雰囲気も知ることができました。そして、直接行ったことにより入学したいという意志を固めることができました。

意志が固まってからは、多くの先生方から小論文の指導をしていただきました。はじめに書いた小論文はとても読めるものでなく作文に近いものでしたが、夏休みには毎日学校で小論文の練習を行い最終的に満足いくものを書き遂げる事ができるようになりました。面接練習では、担任の先生や進路の先生、農業科の先生に基本的なものから専門的なものまで大学の面接傾向に合わせ、実践的な練習をしていただきました。

こうした積み重ねがあったからこそ、本番では緊張しながらも全力を出すことができたのだと思います。また、最後まで諦めず続けられたのは放課後遅くまで共に学んだ友人の存在がとても大きかったと感じています。個人の努力はもちろん大切ですが、進路はチーム戦なのだと思います。大学では様々なことに関心を持ち、充実した学生生活にできるよう研鑽を重ねていきたいと考えています。最後になりますが、小論文の添削や面接の練習、志願理由書の添削をしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

3. 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科

私は高校入学当時から進学を考えていました。しかし、詳しい進学先などは未定で宇都宮大学に決めたのは、先生や家族などの助言により高校二年の冬頃に目指し始めました。

そこからは定期テストの結果でもクラス内三位以内を目指し頑張っていました。受験対策は三年の夏休み前から始め、書類の作成や面接対策、総合型選抜だったためプレゼンテーション資料の制作もはじめました。私が一番時間をかけたのは書類の制作です、夏休み中でも学校に行き担任の先生や多くの先生方に添削などをしてもらえたのでなんとか提出期間内に送ることができました。その後は面接練習を先生方だけでなくクラスの友達などにも手伝ってもらいました。私から後輩へのアドバイスとして、面接練習はできるだけたくさんしておくといいと思います。私は試験当日の面接では想定していた質問は全く聞かれず、とてもテンパってしまいました。そのため、早めに先生や友達に面接練習を多く頼み、どんな質問をされても返答でき自分の強みを出し自分はここの大学にどうしても入学がしたいという気持ちとやる気が伝わるように練習、対策しておくことが重要だと考えます。面接の際、農業関連の話も聞かれたので夏休み中から農業新聞などで情報収集しておくのも良いと思います。

私が宇都宮大学に合格できたのは担任の先生のほか多くの先生方や家族、友達のサポートがあったからです。大学に入学したあとも精一杯頑張っていこうと思います、ご指導くださった先生方ありがとうございました。

4. 宮崎大学 農学部 畜産草地科学科

私は進路を選択するうえで、大学で農学を学びたいと思いました。群馬県は自分が学びたい農学部がなかったため、県外の大学を視野にいれました。県外の大学を受験するには国立大学というルールを自分で決めていました。そして、広大な土地で高度な畜産業と化学技術を学べる宮崎大学の学校説明会に参加し、キャンパスに足を踏み入れたとき、宮崎大学に行きたいという気持ちが高まりました。

試験内容は、小論文がなく化学基礎・生物基礎の口頭試問と面接だったため、勉強を夏休みから本格的にはじめました。夏休みは毎日学校の自習室で勉強していました。夏休みは、どれだけ実力をつけられるかが勝負なので頑張りました。宮崎大学は比較的簡単な問題が多いですが、その分一つの配点が大きいため、全問答えられるようにしなければなりません。始めは、過去問の点数が全く取れず落ち込みましたが、負けず嫌いな性格なので折れずに進むことができました。面接は、沢山の先生方や友人に自分の面接を聞いてもらい、アドバイスのもと改善していきました。進路指導の先生に放課後夜遅

くまで面接練習に付き合ってもらい、自信をつけることができました。入試一週間前に本番に向けた練習を始めました。今までの練習とは比べ物にならないほどの緊張感でした。焦りと悔しさに落ち込むこともありましたが、仲間と互いに支え合い全力で励ましあったおかげで、最後までやり遂げることができ、入試本番も実力を発揮できました。

そして、受験を通して先生方、家族、友人などの沢山の人の支えられていることを再確認できました。本当に感謝しています。受験期間は数え切れないほど挫折し毎日地獄のような日々でしたが、この経験は今後自分が壁にぶつかった時に今後必ず役に立つと思います。そして、農学部で学んできたことを生かし、社会に貢献できるよう日々努力を惜しまず頑張りたいと思います。

5. 群馬県立県民健康科学大学 看護学部 看護学科

私は、第一希望は看護専門学校を希望していましたが、英語の先生からより高い水準で学べると大学を勧められたのがきっかけで夏休みが始まる直前に群馬県立県民健康科学大学に進路変更をしました。周りとは比べ圧倒的にスタートダッシュが遅かったため、すぐに受験勉強に取り掛かりました。

試験内容は和文・英文の二つの小論文と面接でしたが、対策を一切していなかったため、夏休み中は和文の小論文の過去問を一日一つ片っ端から解き、添削してもらおうというのを繰り返しました。その添削してもらった部分をまた解き直すことで、同じ間違いをしないようにしていました。英文の小論文の対策として英文法の参考書と単語帳を使い、一から英語を勉強し直しました。具体的には、小論文で狙われやすい英文法や単語帳の例文を和訳し長文読解力を身につけました。そこで、分からなかったところはその日のうちに先生に解説していただきました。また、夏休みが明けた頃から面接練習を始め、毎日違う先生に面接をお願いし、さらに進路指導の先生に毎晩リモートで面接練習をしていただきました。また、特に不足していた英語の学力を補うため英文の和訳や過去問に力を入れました。そして、たくさんの指導や応援をもらい本番を迎えることが出来ました。

本番はあまり緊張せず自分の力を出し切れました。その結果合格することが出来ました。受験期は、精神的にきつく、ネガティブになり泣きながら勉強することもありましたが、高校の先生方・家族・友人のおかげで合格まで導く事ができました。本当に感謝しています。そして、大学進学後は立派な看護師になれるよう努力を惜しまず頑張りたいです。

6. 秋田県立大学 生物資源科学部アグリビジネス学科

私は三年生の4月頃までは農林大学校への進学を考えていました。しかし、農業に関する知識や技術をより深めたいと思い、大学への進学を考えるようになりました。

大学進学を考えるようになってからは、進学先の試験科目の勉強を始めました。夏休みに入ってからは、ほぼ毎日学校に通い一日一回のペースで新聞の一部をまとめることを始めました。出来るようになってからは実際に試験問題の小論文に取り組み、口頭試問の対策で共通テストに挑戦しました。また、受験までに化学基礎の範囲が授業では終わらないので参考書を買って勉強をしました。

夏休みが終わると志願理由書の作成や面接練習が加わりより忙しくなりました。放課後も教室に残り小論文や口頭試問、面接を毎日練習しました。志願理由書では、多くの先生方に見てもらい何度も添削をしてもらいました。面接練習では、多くの先生方に練習をしてもらいました。最初の頃は、自分の言いたいことがうまくまとめられず答えることができませんでした。しかし、先生方のアドバイスや練習を重ねることで自分の伝えたいことが伝えられるようになりました。また、休日も先生に協力してもらいリモートで面接練習をしました。受験希望者の倍率が出たときは倍率が高く本当に受かるのか不安になりました。受験本番が近くなるにつれて本番さながらの練習がはじまるようになりました。より焦りや不安が出てきて、今のレベルで受かることが出来るのか心配でした。ですが、仲間と支え合いながら最後までやり抜くことができ、入試本番でも今までの練習の成果を発揮することができ、無事合格することができました。

大学進学後は、高校で学んだ知識や技術を活かし将来の夢を叶えるとともに、これからの農業を担って行けるよう、日々の学問に努力していきたいと思っています。

7. 駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科

私がこの進路を決めた理由は、三年間で食品について学んでいくうちにより詳しいことを知りたいと思ったことがきっかけです。人の健康をサポートすることに興味を持ち、好きな食品のことに関わりながらサポートする仕事はないかと考えた結果、管理栄養士という職業にたどり着きました。管理栄養士の資格が取れる大学は多くありますが、それぞれの大学に良いところがあるため、自分にあった大学を選ぶのは大変でした。私は部活動をしていたので引退後の夏休みにオープンキャンパスに参加して進路を決めました。

試験内容は書類審査、個人面接、生物基礎、化学基礎の学力テストでした。書類審査のためのエントリーシートは何度も書き直しました。何度も直されるうちに、自分に自信がなくなり書くことが何も浮かばなくなり、家で泣いたこともありました。しかし、先生が優しくサポートしてくれたおかげで完璧なエントリーシートを書き上げる事ができました。面接は、積極的に先生に頼み、休み時間や放課後に練習しました。生物基礎の勉強では二年生の定期テストに使用していた暗記ノートを活用しました。また、化学基礎は一年、二年で勉強していなかったので夏休みの補習に参加して対策しました。

「受験は団体戦」とよく聞きますが本当にその通りだと思います。私が大学に無事合格できたのは一緒に面接練習や勉強をしてくれた友人、サポートしてくれた先生方のおかげです。この経験を忘れずに今後の人生に生かしていきたいと思います。

8. 群馬県立農林大学校 農業経営学科 野菜コース

私は、三年生の二学期頃まで就職するか進学するか迷っていました。しかし、勢多農林高校での授業や実習、課題研究を行っていくにつれて、もっと農業のことを深く学んでいきたいと思い群馬県立農林大学校に進学しようと思いました。

それから志望校を受けるにあたって、志望理由の作成や面接練習、小論文の練習に力を入れました。農林大学校には指定校推薦がなく、公募推薦か一般受験しかないので、公募推薦がとれるようにある程度の成績を取ることが大切になってくると思います。そして、志望理由の作成では、まず志望校のことをよく調べ、自分自身が農業で何をしたいか、何を学んでいきたいかなどを考えました。もちろんそのためにオープンキャンパスにも参加しました。志望校のことを知ることによって自分のやりたいこととあっているかがわかり、志望理由も書きやすくなると思います。また文章力をつけるために読書をするのも大切だと思います。そうすれば、自分の趣味にもなり文章力も見聞も広がるので良いと思います。そしてそれが、小論文をうまく書くためになると思います。他にも小論文は最後まで書ききることが大切です。色々な先生方に何度も添削してもらおうと良いと思います。面接練習では、実際には三対一で行われたので担任の先生や農業の先生方など複数の先生方に面接練習をしていただきました。面接練習をしても緊張を絶対にしないなどということはないので、面接練習は数あるのみだと思います。

実際に受験を受ける時は、自分一人ですが、それまでの努力はとても役に立つので、日頃から色々なことに真面目に取り組み努力をしていくことが大切だと思います。

9. 群馬県立農林大学校 農と食のビジネスコース

私は二年生までは就職を考えていました。ですが、高校生活を通していくうちに先生や友達と農業を学び、専門学校への進学を目指すようになりました。

私は公募推薦を受けるため、提出物を出したり、定期テストをがんばって評定を上げようと努力しました。

小論文対策は、受験一ヶ月前から少しずつ行っていました。過去の小論文のテーマを自分で実際に時間を測って練習しました。最初は時間いっぱいになっても埋まりませんでした。毎日少しずつ練習を行うことで着実に埋めていくことができるようになりました。自分だけではわからないこともあり、一週間前には放課後に先生方のご指導を受け、着実に準備を進めることができました。私は横書きの小論文の練習をしていましたが、本番では縦書きの小論文がでてきたので、どちらも練習しておいたほうがいいです。

面接対策は、最初は質問一つ返すのにも一苦労でしたが、友達と毎日放課後、学校に残って面接練習を行い、対策を行いました。本番では緊張してしまいましたが、友達と練習でやったことを思い出し、事前の準備のおかげで無事、合格することができました。皆さんも日々努力して進路を実現できるよう頑張りましょう。

私が農林大学校へ合格できたのは、多くの先生方や、友人、家族のおかげだと断言できます。先生方、ご指導いただき本当にありがとうございます。

入学後は、高校で学んだ知識を活かし、自分の興味のあることに積極的に取り組んでいき、日々学問に精進していきたいと思います。